

編集後記

『中京大学文学会論叢』第三号をお届けする。

今号は、上代、中古、中世、近世、近代と、さらに現代の学校教育についての論文八本の投稿があり、すべての分野が揃った。さらに学部生による投稿もあり、花を添えた。ただ、今回の執筆者は学内者で占められており、学外の会員からの投稿がなかったことに一抹の寂しさを感じる。

今年度は文学部開設五十周年の記念の年であった。六月十八日の文学会春季大会では作家で書誌学者の林望氏をお招きしての記念講演が開催された。演題は「文学、書物、そして書誌学」若き日の文学修行と恩師がたの面影」である。講演者、演題ともに記念講演会にふさわしかったと思う。また、同日に第一回文学部同窓会があり、一九三人の卒業生が集結し、教員もあわせると実に二二三名の参加で、盛会であったが、その卒業、修了生からの投稿を期待したい。

来年度は、歴史文化学科の完成年度で四年生を迎えることとなる。歴史関係の論文をはじめとして、会員諸氏には様々な学問分野のご投稿を願う次第である

(中川)

中京大学文学会論叢 第三号

(『中京国文学』通号 第三十六号)

平成二十九年三月十五日 発行

編集兼
発行者 中京大学文学会

代表 佐藤 隆

名古屋市昭和区八事本町一〇一ノ二

電話(〇五二)八三五 七一―

振替 名古屋 六一六〇〇三〇

印刷所 株式会社 一誠社

名古屋市昭和区下構町二ノ二三

電話(〇五二)八五一 一一七一

表紙題字(書) 樽本樹郎(英信) 名誉教授